

# 授業 出前

ひろしま  
歴史再発見





「広島城下町絵図(弘化年間)」(広島城蔵) と「広島城下絵屏風」に描かれた西国街道  
「広島城下絵屏風」より何十年かのちの様子ですが、広島城下町の構成がよくわかります。

別ページの地図や次に出てくる絵を見ながら、  
下の問いの（ ）に答えを書いてね。

問い 1 地図 1 (広島城下町絵図) を見てみましょう。

この地図は、広島城とそのまわりに  
作られた城下町を上から見たものです。

今から約（ ）年くらい前の様子です。

黄色の区域は（ ）たちの町、

黒の区域は（ ）たち(職人や商人)の町、

また赤で塗られたところは

( ) や ( ) です。

☆ みなさんの学校は、当時のどの辺だったと思いますか



問い 2 地図 2 (広島城下絵屏風) を見てみましょう。

広島城下絵屏風とは

今から約（ ）年前の広島の様子を描いた屏風で、

広島城を中心ににぎわった城下町の様子を描いています。

江戸時代、「西国街道」と呼ばれた大きな道沿いに、

町なみや人々を、( ) 側(海側)の高いところから

ながめたように描いています。

☆ 地図 1 のどの部分が描かれているでしょうか

広島城の天守は

小さく見える…

町人の町が

描かれています

大きな道が

通っているね



問い 3 この屏風には、337人の人と  
18匹の動物が描かれています。  
どんな人や動物がいますか。



江戸時代には、武士や町人などさまざまな身分があり、服装や持ち物で区別できました。比べてみましょう。  
また、一番たくさん描かれている動物は（ ）です。  
人が乗ったり、荷物を運ぶために利用されました。



看板に注目!

問い 4 下の図は、現在の本通商店街付近の一部で

① 真ん中にあるのは、何を売る店でしょうか。

② 人々は、どうやって移動していたのでしょうか。

A 自分で歩く…一番多い移動手段です。  
むかしの人は本当によく歩きました。

B ( )に乗る  
お供の人が槍を持っているので、この人の身分は( )だと考えられます。

C ( )に乗る  
AもBも、限られた人しか使うことはできませんでした。



問い

5

ここは、江戸時代の広島で一番にぎやかだった場所です。

① 2本の川にはさまれた場所には、大きな店やお寺の屋根が見えます。この場所は、現在のどこでしょうか。

( ) …右側の川 ( ) 川には元安橋、左側の川 ( ) 川には猫屋橋 (現在は本川橋) が今と同じ場所に架かっています。

ます。

② 右側の川を少しさかのぼると、○の大きな建物が見えます。これは、当時の米蔵です。今、この場所には世界遺産として有名な

( )

があります。



問い

6

この絵の中では、牛は、町のはずれの橋の上に一匹しか描かれていません。なぜでしょうか。

江戸時代、広島藩全体では馬よりも牛の方がずっとたくさんいました。牛の力が必要とされるのは、どんなところでしょうか。



屏風の中には描かれていませんが、城下町には豚もたくさんいたそうです。

す。



いちまい え み した と こた か  
もう一枚の絵を見ながら下の問いの( )に答えを書いてね!

問い 1 広島諸商仕入買物案内記とは

ひろしま しょうし いれ かい もの あん ない き  
1 広島<sup>ひろしま</sup>のまち<sup>まち</sup>にあった<sup>あった</sup>お店<sup>みせ</sup>のガイドブック<sup>ガイドブック</sup>で、  
いろいろな<sup>いろいろな</sup>お店<sup>みせ</sup>が絵<sup>え</sup>で紹介<sup>しょうかい</sup>されています。  
しゅっぱん めいじ ねん ねん  
出版<sup>しゅっぱん</sup>された<sup>された</sup>のは明治<sup>めいじ</sup>16年<sup>ねん</sup>( )年<sup>ねん</sup>のこと。  
いま ねんまえ ひろしま  
今<sup>いま</sup>から( )年<sup>ねん</sup>前<sup>まえ</sup>の広島<sup>ひろしま</sup>のよう<sup>よう</sup>すが  
えが  
描<sup>えが</sup>かれています。



問い 2 これは現在の<sup>げんざい</sup>本<sup>ほん</sup>通<sup>どおり</sup>商店<sup>しょうてん</sup>街<sup>がい</sup>にあった  
「すずり」や「筆」を<sup>ふで</sup>売る<sup>う</sup>店<sup>みせ</sup>の<sup>ようす</sup>様子<sup>ようす</sup>です。  
みち ある ひとひと かんさつ  
2 道<sup>みち</sup>を<sup>ある</sup>歩く<sup>ひとひと</sup>人<sup>かんさつ</sup>々<sup>かんさつ</sup>を<sup>かんさつ</sup>観<sup>かんさつ</sup>察<sup>かんさつ</sup>し<sup>かんさつ</sup>ま<sup>かんさつ</sup>し<sup>かんさつ</sup>よ<sup>かんさつ</sup>う<sup>かんさつ</sup>。

おお ひとひと き  
多<sup>おお</sup>く<sup>ひとひと</sup>の<sup>き</sup>人<sup>き</sup>々<sup>き</sup>は<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>だ<sup>き</sup>( )<sup>き</sup>を<sup>き</sup>着<sup>き</sup>て<sup>き</sup>い<sup>き</sup>ま<sup>き</sup>す<sup>き</sup>が、  
ようふく ひと  
洋<sup>ようふく</sup>服<sup>ひと</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>ひと</sup>い<sup>ひと</sup>ま<sup>ひと</sup>す<sup>ひと</sup>。  
おとこ ひと き たんぱつ  
男<sup>おとこ</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>き</sup>「まげ」<sup>き</sup>を<sup>き</sup>切<sup>き</sup>っ<sup>き</sup>て<sup>き</sup>、短<sup>たんぱつ</sup>髪<sup>たんぱつ</sup>に<sup>たんぱつ</sup>な<sup>たんぱつ</sup>っ<sup>たんぱつ</sup>て<sup>たんぱつ</sup>い<sup>たんぱつ</sup>ま<sup>たんぱつ</sup>す<sup>たんぱつ</sup>。  
がいこく はい  
そ<sup>がいこく</sup>し<sup>はい</sup>て<sup>はい</sup>外<sup>はい</sup>国<sup>はい</sup>か<sup>はい</sup>ら<sup>はい</sup>入<sup>はい</sup>っ<sup>はい</sup>て<sup>はい</sup>き<sup>はい</sup>た<sup>はい</sup>( )<sup>はい</sup>を<sup>はい</sup>か<sup>はい</sup>ぶ<sup>はい</sup>る<sup>はい</sup>よ<sup>はい</sup>う<sup>はい</sup>に  
おんな ひと にほんかみ  
な<sup>おんな</sup>り<sup>ひと</sup>ま<sup>にほんかみ</sup>し<sup>にほんかみ</sup>た<sup>にほんかみ</sup>。女<sup>おんな</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>にほんかみ</sup>ま<sup>にほんかみ</sup>だ<sup>にほんかみ</sup>日<sup>にほんかみ</sup>本<sup>にほんかみ</sup>髪<sup>にほんかみ</sup>の<sup>にほんかみ</sup>ま<sup>にほんかみ</sup>ま<sup>にほんかみ</sup>で<sup>にほんかみ</sup>す<sup>にほんかみ</sup>。

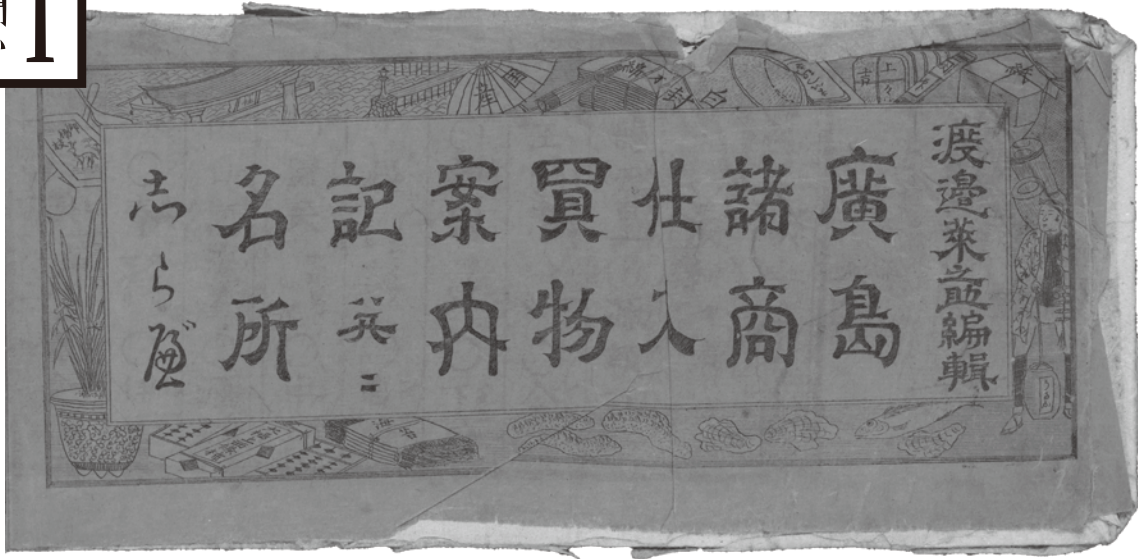


江戸時代の髪型

問い 3 本通商店街にあった輸入雑貨店の様子です。  
ぼん しょうし がい う もの  
3 帽子<sup>ぼうし</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>に<sup>う</sup>売<sup>もの</sup>っ<sup>もの</sup>て<sup>もの</sup>い<sup>もの</sup>る<sup>もの</sup>物<sup>もの</sup>は<sup>もの</sup>？

- ①( )…外<sup>がいこく</sup>国<sup>はい</sup>か<sup>はい</sup>ら<sup>はい</sup>入<sup>はい</sup>っ<sup>はい</sup>て<sup>はい</sup>き<sup>はい</sup>た<sup>はい</sup>( )<sup>はい</sup>を<sup>はい</sup>持<sup>はい</sup>ち<sup>はい</sup>歩<sup>はい</sup>く<sup>はい</sup>事<sup>はい</sup>が<sup>はい</sup>流<sup>はい</sup>行<sup>はい</sup>し<sup>はい</sup>て<sup>はい</sup>い<sup>はい</sup>ま<sup>はい</sup>し<sup>はい</sup>た<sup>はい</sup>。
- ②( )…日<sup>にほん</sup>本<sup>にほん</sup>で<sup>にほん</sup>は<sup>にほん</sup>明<sup>めいじ</sup>治<sup>じだい</sup>時<sup>じだい</sup>代<sup>じだい</sup>に<sup>じだい</sup>な<sup>じだい</sup>っ<sup>じだい</sup>て<sup>じだい</sup>か<sup>じだい</sup>ら<sup>じだい</sup>使<sup>つか</sup>わ<sup>つか</sup>れ<sup>つか</sup>る<sup>つか</sup>よ<sup>つか</sup>う<sup>つか</sup>に<sup>つか</sup>な<sup>つか</sup>り<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>し<sup>つか</sup>た<sup>つか</sup>。
- ③( )…薬<sup>くすり</sup>や<sup>くすり</sup>化<sup>けしやう</sup>粧<sup>ひん</sup>品<sup>ひん</sup>な<sup>ひん</sup>ど<sup>ひん</sup>を<sup>ひん</sup>こ<sup>ひん</sup>れ<sup>ひん</sup>に<sup>ひん</sup>入<sup>ひん</sup>れ<sup>ひん</sup>て<sup>ひん</sup>売<sup>ひん</sup>る<sup>ひん</sup>よ<sup>ひん</sup>う<sup>ひん</sup>に<sup>ひん</sup>な<sup>ひん</sup>り<sup>ひん</sup>ま<sup>ひん</sup>し<sup>ひん</sup>た<sup>ひん</sup>。
- ④( )…そ<sup>つか</sup>れ<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>で<sup>つか</sup>使<sup>つか</sup>わ<sup>つか</sup>れ<sup>つか</sup>て<sup>つか</sup>い<sup>つか</sup>た<sup>つか</sup>口<sup>くち</sup>ウ<sup>くち</sup>ソ<sup>くち</sup>ク<sup>くち</sup>に<sup>くち</sup>替<sup>か</sup>わ<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>て<sup>か</sup>照<sup>しょう</sup>明<sup>めい</sup>と<sup>めい</sup>し<sup>めい</sup>て<sup>めい</sup>使<sup>つか</sup>わ<sup>つか</sup>れ<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>し<sup>つか</sup>た<sup>つか</sup>。
- この時代<sup>じだい</sup>は<sup>じだい</sup>ま<sup>じだい</sup>だ<sup>じだい</sup>ガ<sup>でんき</sup>ス<sup>でんき</sup>・電<sup>でんき</sup>気<sup>でんき</sup>は<sup>つか</sup>使<sup>つか</sup>わ<sup>つか</sup>れ<sup>つか</sup>て<sup>つか</sup>い<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>せ<sup>つか</sup>ん<sup>つか</sup>で<sup>つか</sup>し<sup>つか</sup>た<sup>つか</sup>。
- ⑤( )…明<sup>めいじ</sup>治<sup>ねん</sup>6年<sup>ねん</sup>(1873)に<sup>ねん</sup>時<sup>じこく</sup>刻<sup>き</sup>を<sup>き</sup>決<sup>き</sup>め<sup>き</sup>る<sup>き</sup>方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>が<sup>せい</sup>西<sup>せい</sup>洋<sup>よう</sup>式<sup>しき</sup>に<sup>しき</sup>変<sup>か</sup>わ<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>た<sup>か</sup>た<sup>か</sup>め<sup>か</sup>、  
そ<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>せ<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>( )<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>売<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>よ<sup>あ</sup>う<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>。

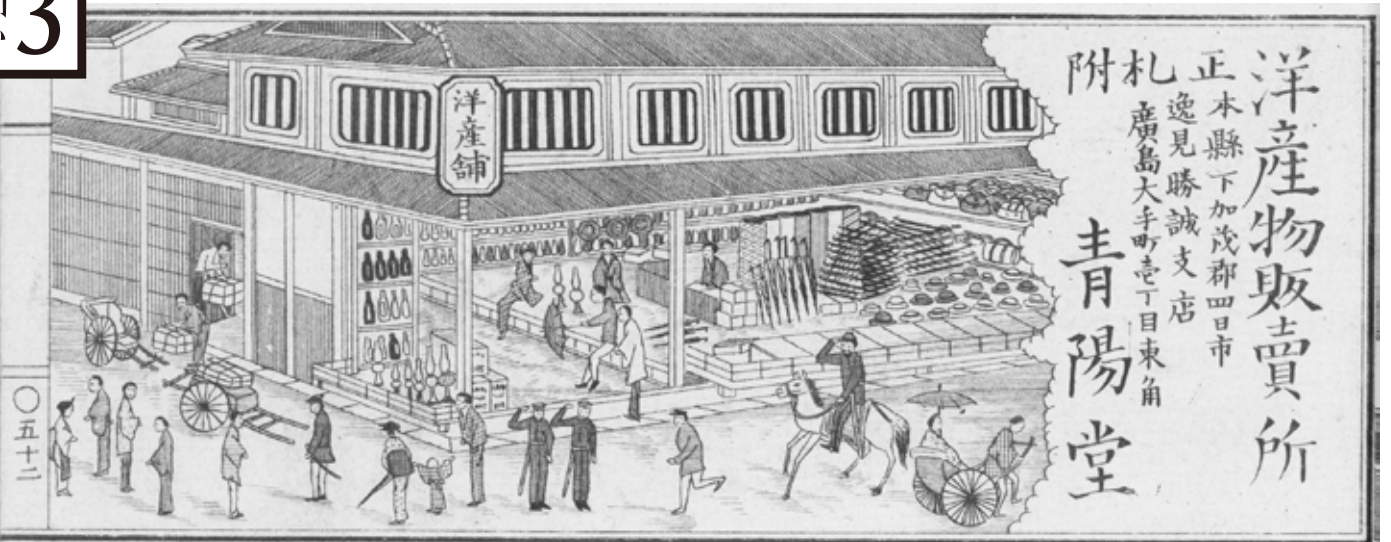
問1



問2



問3



問い 4 これは現在のどこにあった  
お店を描いているのでしょうか？

( ) …明治時代の広島町の町で最もにぎやかな場所でした。  
昭和20年(1945)の被爆後に公園になりました。

問い 5 これは何川の様子でしょう。

( ) …江戸時代からこの川や元安川には多くの船が行き来していて、  
( )や( )などの物資が町の中心部に運ばれていました。  
運ばれた物は( )から陸に上げられました。  
明治時代に入ってから、川を行き交う船の数はさらに増えました。



この絵は元安川の船の様子です。  
並んでいる船の一番右は海の船、  
その左に並んでいるのは川の船です。

問い 6 明治時代になると江戸時代の広島には無かった  
人や物を運ぶ道具が登場しました。  
この絵にはそのうち2つが描かれています。

①( ) …人の力で人を輸送する車のこと。明治時代から昭和時代初期にかけて使われました。  
今でも観光地などで見ることができます。江戸時代には籠が使われていましたが、  
買物案内記にはまったく描かれておらず、この頃には姿を消していたようです。

②( ) …江戸時代には限られた場所以外では使用が禁止されていましたが、  
明治時代になって広島でも多く使われるようになりました。

江戸時代に物を運ぶために使われていた( )は

この頃にもまだよく使われていて、この絵にも描かれています。

一方、( )は買物案内記にはほとんど描かれておらず、

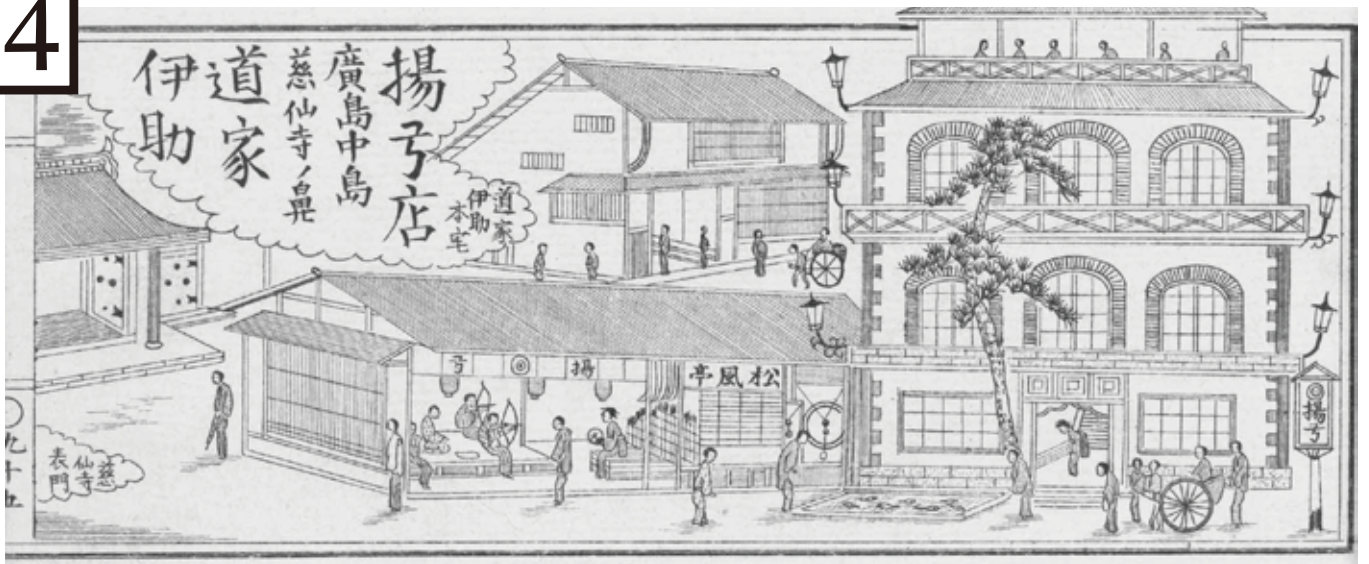
この頃には町ではあまり使われなくなったようです。



江戸時代に使われていた「籠」



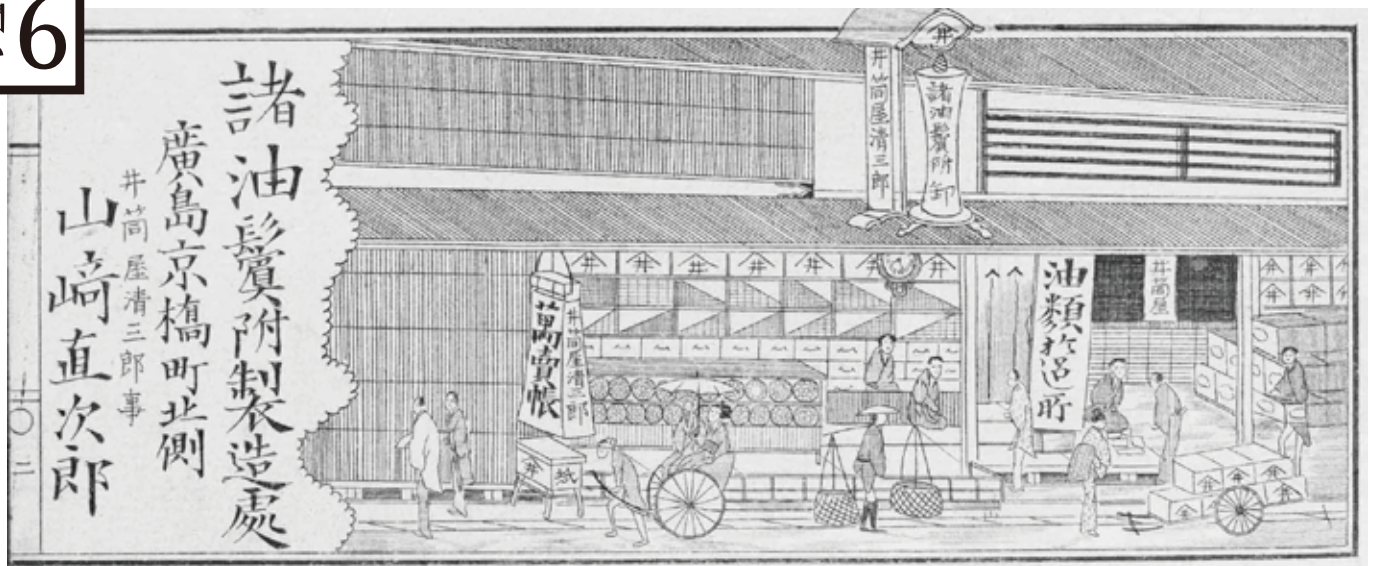
問4



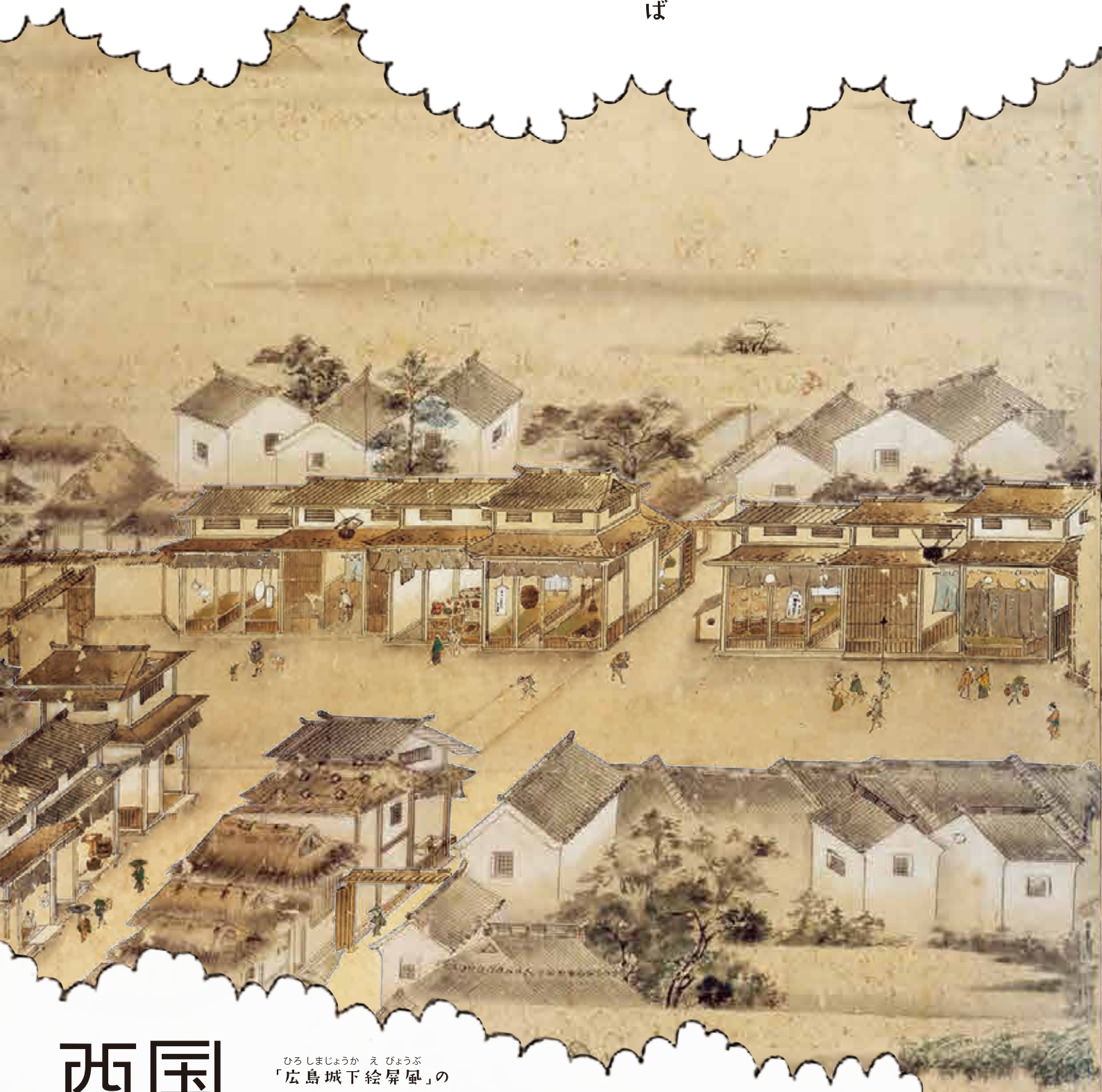
問5



問6



ほら、  
耳を傾ければ  
文明開花の  
声  
がする。



# 西国 文化の大動脈 街道

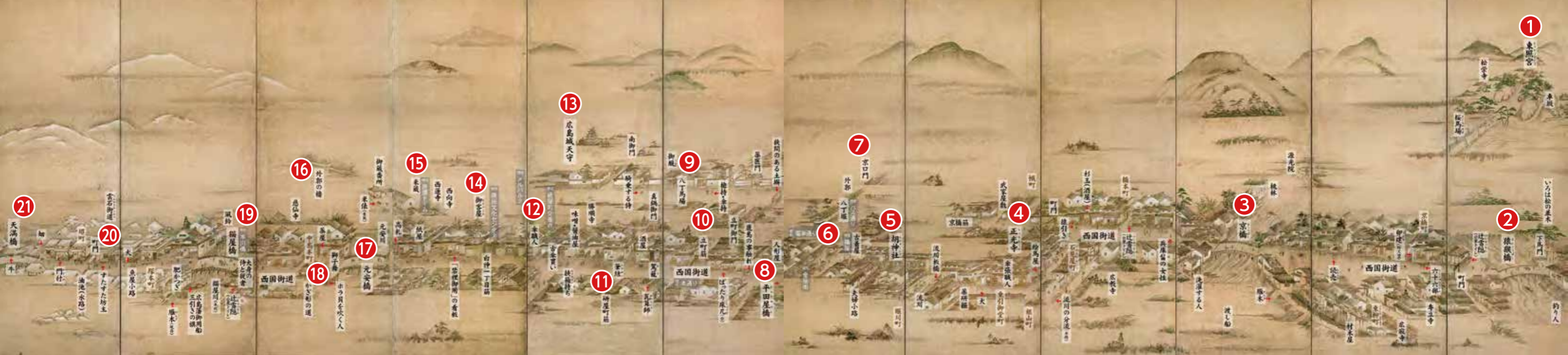
The Saigoku Kaido Highway  
the Road that Led to Hiroshima's Prosperity

ひろしまじょうか えびょうぶ  
「広島城下絵屏風」の  
中の人たちは、  
何を話しているのかな？  
考えてみよう！

広島城に「広島城下絵屏風」の実物を見に行こう！

広島市指定有形重要文化財 広島城下絵屏風  
公益財団法人広島市文化財団 広島城 所蔵

広島東ロータリークラブ・広島安芸ロータリークラブ・まちなか西国街道推進協議会



# ふらっとり広島城下町めぐりマップ

～広島城下絵屏風に描かれた道筋を歩いてみましょう！～

現在の市街地図に広島城の縄張と街道を重ねています。

\*広島城下大絵図(広島市中央公民館編集・提供) 地図データを加工して使用しました。

- 西国街道(広島城下絵屏風のルート)
- 雲石街道
- 堀・堀川(平田屋川・西堂川)

- 1 広島東照宮
- 2 猿猴橋
- 3 京橋
- 4 正光寺
- 5 福屋本店
- 6 京口門
- 7 京口門公園
- 8 平田屋橋
- 9 ひろしま美術館
- 10 ローション
- 11 アンデルセン
- 12 メルパルク
- 13 広島城天守閣
- 14 県民文化センター
- 15 原爆ドーム
- 16 外郭の櫓台跡
- 17 元安橋
- 18 平和記念公園
- 19 本川橋
- 20 相生通り
- 21 天満橋

寺町通り

相生通り

鯉城通り

並木通り

地藏通り



# 街道沿いに見れる、西国街道デザイン

かい どう そ み さい ごく かい どう

街道沿いに歩いて行くと見えてくる、西国街道デザインが、続々と誕生しています。



## 夢街道ルネサンス

国土交通省は、歴史や文化を今に伝える街道を「夢街道ルネサンス認定地区」として認定しています。広島市内では、原爆によって当時の城下町らしい町並みは消えてしまいましたが、歴史と人と未来をつなぎ新たな賑わいを創る道として、広島城下・西国街道として、夢街道ルネサンスに認定されました。

## 道路標識サイン

西国街道沿いにある街灯に  
標識サインを取り付けました。  
矢印で西国街道ルートをご案内。  
西国街道の「赤、河川の「青」を用いて  
広島のみちなか西国街道を表現しました。

## デザインマンホール



広島が川のまちとして発展し、  
かつて江戸時代の城下町の目抜き通りであった  
西国街道のなりわいを浮世絵風にしたデザインです。  
紙商人・仏壇作り・舟運を用い、  
人物を大きく配置することで  
活気あふれるワンシーンを表現。  
広島市立大学芸術学部の学生さんが  
デザインしています。



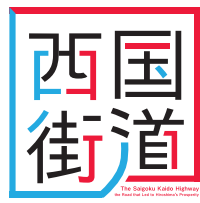
西国街道マンホールの  
キーホルダーも  
販売されています(友鉄工業)

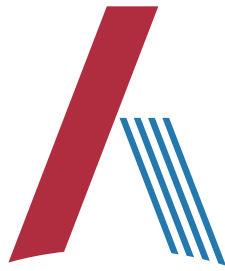
## 駅前案内板

広島駅近く「駅前大橋」のたもとに、  
西国街道の案内板を設置しました。  
西国街道沿いの観光スポットや  
「広島城下絵屏風」と現在の地図とを見比べながら、  
江戸時代から現代の歴史の流れを見ることが出来ます。  
また、様々な時代の地図を見ながら  
街歩きができるアプリ「城下町広島から」の  
紹介もしています



広島市下水道局ホームページより引用





ひろしま  
西国街道  
hiroshima  
saigokukaido  
Brand



## 西国街道お酒セット

広島市内の西国街道沿いに古くからある4つの酒造のお酒を、「広島醸酒《西国街道》四天王蔵」という西国街道ブランドオリジナルのお酒セットにしました。お酒というと東広島のイメージがあるかもしれませんが、梅田酒造場、原本店、小泉本店、八幡川酒造の4つは、広島市内の西国街道筋で今も日本酒の製造をしています。



行灯  
あんどん

広島で活躍するデザイナー・大田一朗さんと広島仏壇の工芸師・栄光工芸が共同で制作しています。コンピューターを使った現代の最新技術と仏壇作りの伝統技法がタッグを組んでできあがる新しいデザインの行灯です。江戸時代、西国街道は夜も多くの人で賑わい、あかあかと行灯で照らされていたそうです。江戸時代の夜を照らした行灯が、時を越えて再び令和の西国街道を照らします。

ひろしま西国街道ブランドが誕生しました。



## 広島漆器 ひろしましっき

江戸時代から盛んだった広島の仏壇づくりは、1978年に広島仏壇として経済産業大臣指定の伝統工芸品に指定されました。その仏壇づくりの漆塗り(うるしめり)の技を使って、お仏壇の高山清四代目・塗師高山尚也さんの手によって作られているのが、子供から大人まで世代を問わず楽しみながら使うことができる広島漆器です。傷んでも職人の手によってまた修復できるので、長く使う事ができます。



## 西国街道もち

まちなか西国街道推進協議会と、もみじ饅頭で知られる銘菓にしき堂のコラボで出来上がった、おもち生地にあんこが入ったしっとりもちもち食感の和菓子です。和菓子の表面には、幕末に1度だけ行われた幻のお祭り「砂持加勢(すなもちかせい)」の様子を焼き印しており、江戸時代広島のにぎやかなお祭りの様子が楽しめます。